

## 第57回神奈川県看護賞受賞者名簿

\*各項目とも令和4年4月1日現在  
(職種・五十音順、敬称略)

	区分	氏名	所属(所在地)	功績等
1	保健師	いしかわ きみこ 石川 貴美子	秦野市福祉部福祉事務所 (秦野市)	平成8年度に母子保健計画の策定、平成12年度に介護保険制度の立ち上げに携わる。平成14年度には「健康はだの21」を策定し、新たな施策づくりや保健事業の立ち上げに貢献。平成17年度には「全国いきいき公衆衛生の会」全国集会を秦野市に誘致するとともに、健康推進団体と協働でシンポジウムを開催した。さらには介護予防事業を立ち上げ、チヨダ地域保健推進賞を2回受賞。近年は介護予防・日常生活支援総合事業等、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいる。
2	保健師	かどわき ゆみ 門脇 由美	横浜市栄福祉保健センター (横浜市)	「地域型認知症予防プログラム」による認知症予防事業「徘徊高齢者情報提供ネットワーク」の早期の立ち上げに尽力した。また、健康問題を解決するため、関係団体、民間企業、行政が一体となって健康づくりを推進する「健康づくり推進会議」事業を実施した。
3	保健師	ほった あきえ 堀田 彰恵	公益社団法人 川崎市看護協会 (川崎市)	川崎市在職中、地域ミニデイケアグループの育成等、地域住民同士の支えあいの活性化に貢献。「こんにちは赤ちゃん事業」「不妊・不育相談支援センター事業」「産後ケア事業」の立ち上げや「妊婦健康診査助成制度」の拡充等に携わり、母子保健の向上を図った。さらに、中核的な医療機関のネットワークの強化等により、児童虐待対応の充実に尽力した。現在は、市内看護職と市民に向けて「身近な看護協会」らしい取組の推進に努めている。
4	助産師	すずき れいか 鈴木 令佳	かもめ助産院 (横須賀市)	助産所において出産の安全管理を最優先に妊産婦に寄り添い、快適で安心できる満足度の高い出産ケアを提供している。平成27年からは横須賀市の委託を受けて産後ケア事業を展開し、地域に根付いた子育て支援を行う。平成30年からは自身で訪問看護ステーションを立ち上げ、疾病を有する妊産婦や子供を対象に積極的に訪問看護を行い、子育て支援の場を広げるなど、地域貢献において著しい功績をあげている。
5	看護師	かんだ まりえ 神田 真理恵	公益社団法人 神奈川県看護協会 あかしあ訪問看護ステーション (茅ヶ崎市)	訪問看護ステーション所長として、看護師の育成、看護学生・研修生の実習指導等、看護師の資質向上に尽力している。行政からの要請により、小児、高齢者、精神疾患、災害に関連する会議等に参画。新型コロナウイルス感染症対策においては、在宅医療部会を通じて、資源の確保と情報共有に努め、職員が安心して勤務ができるように職場環境を整えた。

		区分	氏名	所属（所在地）
功績等				
6		看護師	にし か ど か ず え 西 角 一 恵	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター (横浜市)
神奈川県立こども医療センターにおいて長きにわたり小児看護の臨床に携わり、特に医療ケアを要する小児の在宅医療の推進については、小児専門病院として訪問看護師向け医療ケア実技研修会を立ち上げるなど地域の受入れ拡大に取り組んだ。また平成26年度に行われた厚生労働省の小児等在宅医療連携拠点事業においては、こども医療センターの地域医療連携室長として神奈川県医療課と協力し、事業展開に携わった。				
7		看護師	にし か わ ゆ き こ 西 川 雪 子	社会医療法人財団互惠会 大船中央病院 (鎌倉市)
看護部長として、看護基礎教育機関からの実習受入れ体制の整備と指導者育成を行い、看護学生の実習受入れを拡大してきた。市民公開講座、地域のイベント等を活用して、地域住民の健康教育・健康相談を行い、健康保持増進に貢献するとともに、高校生の一日常護体験を受け入れることで、看護職への関心を高め、将来を担う人材の確保に貢献した。				
8		看護師	は ま さ き と よ こ 濱 崎 登 代 子	社会福祉法人若竹大寿会 介護老人保健施設リハリゾートわかたけ (横浜市)
看護キャリア開発支援センター長として看護師の特定行為研修施設を開設。勤務計画表作成基準を整備し、休暇取得や夜勤回数、時間外勤務時間を可視化し、働きやすい職場環境に向けて業務改善に取り組む。新型コロナウイルス感染症対策におけるクルーズ船への対応では、横浜市立大学附属病院看護部長として自病院から延16名、支部所属病院から延18名の看護師を派遣。入院患者の受入れ開始、帰国者・接触者外来の立ち上げなど、迅速に対応すると同時に職員のメンタルヘルスに取り組んだ。				
9		看護師	は ら み ち こ 原 美 智 子	医療法人社団聖ルカ会 パシフィック・ホスピタル (横須賀市)
平成23年に神奈川県看護協会災害支援ナースに登録し、平成25年に指導者養成を受講後、災害支援ナース育成に携わっている。同年より神奈川県看護協会災害救護対策委員会に所属し、県民や看護職に対して災害看護の普及啓発に取り組んでいる。東日本大震災の際には被災地支援に積極的に参加し、他の災害支援ナースのモデルにもなっている。				
10		看護師	や ぎ み ち こ 八 木 美 智 子	川崎医療生活協同組合 (川崎市)
地域医療、在宅医療に携わり、地域の健康づくりに住民とともに取り組んできた。法人経営の一端を担いながら、看護師教育、後輩の育成・指導にあたっている。多職種連携を図り、チーム医療の充実が図れるよう支援するとともに、病院看護部長会、川崎市看護協会の役割を担い川崎市内の病院の看護職と協働し、地域の看護職の質の向上に尽力した。				